

茨木市立郡小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③B書くこと | 課題が残る結果であった |
| ④C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題の正答率が一番高い。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率が一番低い。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の無回答率が一番高い。
- ・はじめの選択式問題にあるスピーチの構成、資料理解、文章構成の把握、語句理解の無回答率が低い。

分析

- ・漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が高い。
→漢字練習では、必要に応じて辞典やタブレット等を効果的に活用し、文章に合った正しい使い方を習得している。
- ・説明的な文章を読み、分かったことをまとめる問題の記述する正答率が低い。
→文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、必要な情報を見付けるために、文章と図を結びつけて読むことが苦手である。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率が低い。
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率が低い。
→理由や事例を明確にしなが筋道を立てて自分の考えを述べるのが難しい。
- ・全国や大阪府と同様、記述式解答に時間がかかるからか、記述式後の問題から無回答率が高くなる傾向にある。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|---------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | やや課題が残る結果であった |
| ③C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる問題の正答率が一番高い。
- ・三角形の面積の求め方について理解している問題の正答率が一番低い。
- ・帯グラフを読み取り記述する問題、小数を用いた倍についての説明を記述する問題の無回答率が一番高い。
- ・速さ、時刻、道のり、図形、グラフの読み取り等知識・理解の観点に関する問題の無回答率が一番低い。

分析

- ・全国や大阪府と比較して、どの領域にも広く問題に取り組み、無回答率が低い。
→どの単元においても、見通しを持って問題に取り組むことを積み重ねており、その効果が表れている。
- ・図形の構成の仕方に着目した図形の計量について考察する問題の正答率が低い。
→三角形の面積について、図形の形が変わっても公式を活用して解くことが苦手である。
→同じ面積の三角形の形を変えても面積は変わらないことが理解できていない。
- ・速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題の正答率が高い。
→道のりと時間の関係を数直線や図に表す等の学習が比較的身についている。
- ・統計的な問題解決の方法を用いた問題の正答率が高い。
→棒グラフから、項目間の関係を読み取る事ができている。
→集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断することができている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は、国語も算数も全国平均を下回った。無回答率は、数年国水準を上回る結果が続いたが、H30・R3は国水準を下回っている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語で学力低位層が増えているがエンパワー層は減っている。算数では学力低位層とエンパワー層が増えているが、H31と同様に学力高位層の数値以上を保っている。

○●取組み●○

授業力向上のため、『主体的に学び、生きる力を育む』をテーマに、**文章を読んで、想いや考えを伝え合う**ことを通して、思いをつなげる授業作りを全教科について取り組んできた。教師主導ではなく、児童のつぶやきから授業を展開したり、児童が関心・意欲を持ち続けて授業に取り組んだりするための声かけや児童同士のつなぎ方の研究をしてきた。以下、本校で行っている取組みをまとめる。

- ・自分の意見を持つ。友だちと意見を比べる、付け加える。友だちの意見から、自分と同じか違うかを見つける。友だちの意見のいいところを探す。
- ・『学びのプラン』を活用し、見通しのある授業を行う。
- ・低学年のうちから主語は何なのかをしっかりと把握させ、主語と述語の関係についての指導を重ねていく。
- ・児童への声かけ、指導の仕方、支援方法などの研修会を開催する。
- ・年度始めに学習のきまりを共有する。日々の聞く、話すことの日常的な取組みをすすめる。
→お話し名人、聞き名人のラミネートを各クラスに掲示する。
- ・朝学や昼学、授業の時間で、全校的に取り組む学習環境を整える。
→朝学について
月曜日：学年に応じた学習 水曜日：朝会or読書 火・木・金曜日：3～6年生モジュール学習
- ・学習意欲を高めるための、児童が受ける級を選べる学校独自の漢字検定を実施する。
- ・学期ごとの「家でのごし方ふりかえり週間」によって、児童の生活習慣を把握し、保護者と連携する。
- ・学習の理解が不十分な児童に対する学習支援を行う。
- ・わかったことや気づいたこと、学習のまとめを書く。
- ・読書活動から要約や意見文作りにつなげる。